

医学一般			単位数	履修方法	配当学年
			2単位	R or SR	2年以上
科目コード	CC3079	担当教員	柏木 誠(上)／澤田 悦子(下)		



※この科目は、平成21年度以降入学者に対して開設されている科目です。平成20年度以前に入学した方の「医学一般（4単位）」は『レポート課題集2014（社会福祉編）』または通信教育部 HP をご覧ください。

※スクーリングを別教員（井手貴治先生・城戸裕子先生）が担当いたします。

■科目の内容

日本人の死因は、食生活や運動、嗜好など、日常生活上の不健康な生活習慣の積み重ねによる生活習慣病と深くかかわっています。また、加齢に伴う様々な体の変化は、疾病を生じやすくします。

社会福祉に従事する人にとって、医療の基礎的な知識を持つことは不可欠ですが、私たちがより健康的に生活する上でも、人体や老化、疾病などについて理解することは大切です。福祉関係職種に従事することを目指している人は、利用者の医療と一緒に考えることができるように心がけて学んでください。

本科目では、基本的な人体の構造と機能を理解した上で、直面する頻度の高い障害や疾病について医学的に理解します。学んだ知識を、日々の生活に生かせるような、応用がきく生きた勉強を心がけてください。

医学一般は、予防対策や行政の取り組みなど、医療にかかわる広範囲な内容を含みますが、単位が4単位から2単位に減少したため、リハビリテーションなど、他の科目と重複する分野については、レポート課題には入れませんでした。しかし、非常に重要な分野ですので、教科書をしっかり読んでおいてください。予防対策や、生活習慣病など、「公衆衛生学」と重複しますので、「公衆衛生学」のレポート課題を参照して、より深く学ぶことをお勧めします。

■到達目標

- 1) 加齢に伴う生理機能の低下と、高齢者に多い疾患（慢性腎臓病、高血圧、誤嚥性肺炎など）との関連について説明できる。
- 2) 高齢者に多い疾病および症状の特徴について説明できる。
- 3) 免疫（特に液性免疫）について説明できる。
- 4) 脳の機能と関連させて考え、認知症の中核症状と、主な原因疾患について説明できる。
- 5) 生活習慣病および、生活習慣との関連について説明できる。主な生活習慣病について説明できる。メタボリック症候群と関連させて説明できる。
- 6) 介護保険の特定疾病と、高齢者に多い神経疾患と精神疾患の特徴を説明できる。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 1 人体の構造と機能及び疾病（第3版）』中央法規出版、2015年（第3版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2015年3月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	人の成長・発達と老化① (第1章)	身体の成長・発達、精神の成長・発達について キーワード：遺伝子と環境	胎児期から青年・中年期までの身体および精神の成長・発達の特徴を知り、遺伝子と環境による影響を考えるための基礎を学ぶ。
2	人の成長・発達と老化② (第1章)	老化について キーワード：老年症候群、生理機能の加齢変化	生理機能の加齢変化の特徴を知り、高齢者の特徴や老年症候群について考える。
3	身体構造と心身の機能① (第2章)	人体の構造について キーワード：心臓、腎臓、肺、脳	医学の基礎用語、医学の基礎知識（器官、構造と機能）を学ぶ。特に、脳と腎臓の機能について学ぶ。
4	身体構造と心身の機能② (第2章)	身体機能の調節について キーワード：自律神経、ホルモン、免疫、脱水	医学の基礎用語、医学の基礎知識（人体の恒常性、身体機能の調節）を学ぶ。
5	疾病の概要① (第3章)	生活習慣病と未病、悪性腫瘍、脳血管疾患、心疾患 キーワード：生活習慣病、メタボリックシンドローム、脳出血、脳梗塞、片麻痺、虚血性心疾患	社会福祉士に必要な疾病の概要、症状、予後について学ぶ。日本人の死因、疾病予防について考える。
6	疾病の概要② (第3章)	高血圧、糖尿病と内分泌疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、血液疾患と膠原病 キーワード：高血圧、糖尿病の三大合併症、誤嚥性肺炎、慢性閉塞性肺疾患	
7	疾病の概要③ (第3章)	腎臓疾患、泌尿器系疾患、骨・関節疾患、目・耳の疾患、感染症 キーワード：慢性腎臓病、骨粗鬆症、日和見感染症	加齢に伴う生理機能の低下と、高齢者に多い疾患との関連を考える。介護保険の特定疾病について理解する。先天性疾患と遺伝子異常、感染症や薬剤の影響などについて考える。在宅緩和ケアについて考える。
8	疾病の概要④ (第3章)	神経疾患と難病、先天性疾患、その他の高齢者に多い疾患、終末期医療と緩和ケア キーワード：難病、パーキンソン病、介護保険の特定疾病、先天性疾患、老年症候群、低栄養	

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
9	障害の概要① (第4章)	視覚障害、聴覚障害、平衡機能障害、肢体不自由 キーワード：緑内障、老人性難聴、脳性麻痺	障害の概要と支援方法を学ぶ。
10	障害の概要② (第4章)	内部障害、知的障害、発達障害 キーワード：内部障害、内部障害の特徴	
11	障害の概要③ (第4章)	認知症、高次脳機能障害、精神障害 キーワード：認知症、高次脳機能障害、うつ病	認知症の原因疾患、中核症状および行動心理症状について学ぶ。うつ病、とくに高齢者のうつ病の特徴について学ぶ。
12	リハビリテーションの概要① (第5章)	リハビリテーションとは、リハビリテーションにおける障害評価、リハビリテーションの諸段階 キーワード：リハビリ、廃用症候群、ADL(日常生活活動)	リハビリテーションの概要を理解し、チームアプローチを担う一員としての役割を考える。
13	リハビリテーションの概要② (第5章)	リハビリテーションにかかわる専門職、リハビリテーションの四つの側面 キーワード：理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカー、臨床心理士	
14	国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方と概要 (第6章)	ICIDHからICFへの変遷、その概要について キーワード：ICF、健康状態、生活機能低下	WHOによる健康状態と障害の分類を理解する。
15	健康のとらえ方 (第7章)	健康とプライマリヘルスケア、高齢化と家族、国民健康づくり対策、感染症対策、産業保健、歯科保健 キーワード：健康日本21(第2次)、特定健診、感染症法	超高齢化社会における健康寿命の延伸について考える。

■レポート課題

1 単位め	<p>①腎臓の機能について説明せよ。</p> <p>②脳の構造と機能について説明せよ。</p> <p>③自律神経系による身体の機能の調節について、簡単に述べよ。</p> <p>④加齢に伴う生理機能の低下について説明せよ。</p> <p>⑤免疫について説明せよ。特異的免疫については詳しく説明しておくこと。</p> <p>⑥廃用症候群の定義を述べよ。また、廃用症候群を発症しやすい身体諸器官を挙げよ。</p>
-------	---

2 単位め

- ①生活習慣病について説明せよ。まず定義を述べた後、主な生活習慣病を挙げ、生活習慣と関連させて、説明せよ。特に、死因にかかわる重大な生活習慣病については、詳しく説明せよ。
- ②メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）について説明せよ。代謝異常との関連を記述しておくこと。また、特定健診の必要性についても考察しておくこと。
- ③慢性腎臓病（CKD）について説明せよ。また、CKD と、加齢や他の疾患との関連について考察せよ。
- ④認知症の定義と症状、および、認知症の原因疾患について説明せよ。
- ⑤介護保険について説明せよ。特に、特定疾病に指定されている神経疾患については詳しく説明せよ。（認知症の説明は省いてよい）
- ⑥次の語句の中から、一問を選んで説明せよ。
- 1) 嚥下障害および誤嚥性肺炎
 - 2) 高齢者のかかりやすい精神疾患
 - 3) 感染症（特に日和見感染、院内感染、施設内感染と関連させて考える）
 - 4) 高齢者が脱水症状になりやすい理由
 - 5) 高次脳機能および、高次脳機能障害
 - 6) 内部障害
- ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web 解答可

- 注意** (1) 年度により問題が異なり、また、問題文も長いので、レポート用紙の「課題」欄には、「2015年の問題に解答する」のように、課題の年度のみを記入し、問題文は記入しないでください。「解答欄」にも、問題の番号のみを記入し、問題文は記入しないでください。
- (2) 各問に対して、300字以上をめやすく、単位毎に、1,800字以上2,000字程度になるように、簡潔明瞭にまとめてください。定義を最初に記述し、詳細や例はその後に記述するとわかりやすくなります。
- (3) 教科書や文献をそのまま写すのではなく、自分自身の言葉で、要点をまとめなおしてください。
- (4) 解答として何が求められているのかを考えて、求められた解答を記述することが大切です。
- (5) 解答欄に、不必要に大きな余白はとらないでください。

(平成25年度以前履修登録者) 2014年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集 2013』記載の課題でも2015年9月末までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

「医学一般」では、疾病や障害についての基本的な理解をします。

慢性期や終末期の医療は、医療関係職種と、福祉関係職種とのチームアプローチによって、在宅で展開されることが多くなってきています。特に、福祉関係職種に従事することを目指している者は、利用者の医療を一緒に考えることができるように心がけて学んでください。

テキストを、まず一通り読んで、全体的に理解してから課題に取り組んでください。同じ疾病が何か所かに分かれて記載されていることがありますが、総合的に関連づけられるような学び方が大切です。

教科書は簡単に記述してあるため、理解し難いと感じる人も多いと思います。教科書では理解が不十分だと感じたら、高校の教科書を復習したり、他の文献で調べたりすることをお勧めします。

NHK 出版の『きょうの健康』は、新しい知識を得るのに良い雑誌です。

医療制度や介護保険制度、障害者福祉制度など、改正されることが多い制度については、新聞など

のニュースに注意してふだんから学ぶ姿勢を心がけていてください。COPD やサルコペニアなど、最近話題になることの多い疾患にも関心を持って生活してください。

1 単位め アドバイス

人体の構造と機能は、老化や疾病を理解するための基礎知識として重要です。課題がないところも熟読しておいてください。老化について学ぶことは、高齢者の病気や病気予防を理解することにつながります。

加齢による機能低下が著しい腎臓は、生命を維持するための様々な機能を持っていることを学び、腎臓の機能が病的に低下しないよう役立てましょう。

2 単位め アドバイス

日本人の死因は、生活習慣と密接にかかわっています。2011年より、死因の第3位は肺炎、第4位が脳血管疾患になっていますが、なぜなのか理由も考えてみてください。悪しき生活習慣について認識することで、自らの生活を見つめ直すことも大切です。脳卒中などの重要な疾患は、症状の違いだけでなく、発症原因の違いについても理解しておいてください。

高齢者に多い疾患や、特定疾患（難病）、特定疾病（介護保険）についても理解しておいてください。疾病名だけでなく、病理・病態や、治療法を調べて、理解を深めておいてください。

高齢者では、寝込むような基礎疾患がなくても、低栄養や運動不足などから廃用症候群になったり、寝たきりになったりすることを理解し、予防について考えておいてください。

若い人でも、疾病や運動機能障害などにより体を使わないでいると、筋肉が細くなったり、骨がもろくなったりします。骨量が十分あっても、蛋白質の糖化により骨折しやすくなります。毎日の生活にいかせるような学び方が大切です。

医療は、日々進歩しています。新しい情報を自ら得て、妥当性を確認・判断し、検証しながら行動することが求められます。新聞やインターネットのニュースに関心を持って、学び続けてください。

■科目修了試験 評価基準

1) レポートの評価の基準

- ① 問われていることを理解し、求められていることに応えている。即ち、レポートを読めば、逆に問題がわかるようなレポートになっている。
- ② 教科書などの丸写しではなく、納得したうえで自分の言葉でまとめている。
- ③ 要点を、簡潔に、読み手にもわかるようにまとめている。
- ④ 学び方がわからないと思われる場合は、再提出を求める。助言を参考に書き改めて、再提出したものを評価する。

2) 試験の評価の基準

- ① レポートをまとめる中で学んだ知識が、身についている。ただし、年代や細かい数字などを暗記する必要はない。
- ② 教科書などから学んだ知識が感じられる答案であること。一般常識や、仕事上で得た知識だけでは不十分なので注意する。
- ③ レポート添削の「講評・指導」などの助言を考慮している。

- ④ web 試験は、持ち込みなので、採点は厳しくなる。「レポート課題を理解していない」「教科書を試験前に読んでいない」と判断されれば、不合格とする。

■参考図書

人体の基礎知識の参考書として

貴邑富貴子ほか著『シンプル生理学』南江堂、2008年

黒沢美枝子ほか著『生理学』(コメディカルのための専門基礎分野テキスト) 中外医学社、2012年

中野昭一編『図説 ヒトのからだ』医歯薬出版、2001年

鈴木庄亮ほか著『シンプル公衆衛生学』南江堂、2009年～2014年

『NHK 今日健康』日本放送協会出版、月刊誌

別冊 NHK 今日健康シリーズ (『認知症』、『メタボリックシンドローム』、『うつ病』、『高血圧』など)

山田正仁ほか著『認知症のベストアンサー』主婦と生活社、2012年

Newton 別冊『脳と心』株式会社ニュートンプレス、2012年

田沼久美子ほか著『しくみと病気がわかるからだの事典』成美堂出版、2007年 (3D ビジュアル DVD 付 2013年)

小安重夫ほか著『免疫学マスター』羊土社、2007年

■履修上の注意

平成22年度以前の入学者がこの科目を、高等学校福祉科免許状取得のための教職科目として使う場合は、『レポート課題集2014 (社会福祉編)』p.106～をご覧ください。